

# 高校体育実技における「体育嫌い」と「天井効果」の改善に向けた指導方法に関する研究

ーバレーボールへの参加意欲向上における教え合う関係作りの影響ー

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 中等教育分野 望月 啓介

## 1. 本研究の課題と背景

本研究は、バレーボールへの参加意欲向上における教え合う関係作りの影響に注目して、高校体育実技における「体育嫌い」と「天井効果」の改善に向けた指導方法を検討する。

高等学校の体育実技の学習場面において、生徒には学習問題に対して能動的に学習活動を行うことが期待される。しかし吉川ら(2012)は、「運動を積極的に行う子どもとそうではない子どもの二極化傾向や、運動や体育授業に対して非好意的、あるいは消極的態度を持つ子供が依然として存在する。」(p.108)としており、体育への意欲が低い生徒が存在することを指摘している。そのため、そのような「体育嫌い」の生徒の授業への取り組む意欲を向上させることを目的とした授業の工夫を考えていかなければならない。しかし、「体育嫌い」の生徒に重きを置きすぎるあまり、運動能力の高い生徒には「天井効果」を生んでしまうという可能性が想定される。ここに、一方の生徒における「体育嫌い」の改善を図りつつ、他方の生徒における「天井効果」をできるだけ生まないように授業をするにはどうすればよいのかという課題が出てくる。以下では課題の背景について述べていく。

「体育嫌い」の定義として、吉川ら(2012)は「体育授業に対して、体育学習場面における特定のことがら(原因)により非好意的あるいは消極的態度を形成し、学習者が拒否的な心理状態にあること」(p.110)と述べ、体育の授業に対するネガティブな感情を持つ生徒やその状態を指摘している。また、加賀(2006)は「授業の雰囲気・運動種目・施設用具・授業内容・教師の指導法・評価の仕方など、体育授業

の経験の中で発生したもの」(p.2)とし、「体育嫌い」はこれまでに取り組んできた体育の授業での様々な経験によるものとしている。

「天井効果」の定義として、footballologies(2018)は「突出した個人の能力を測る時に簡単な課題ばかりで全てクリアしてしまうと成長しているのか分からなくなる天井効果」と述べ、「天井効果」をサッカー用語として説明している。これは体育の授業において考えると、運動能力の高い生徒の成長の停滞だけではなく、それに伴って「つまらない」「もっと難しいことがしたい」「普通のルールでやりたい」というような感情が生まれてしまうことも考えられ、そうなるとそのような生徒の体育の授業に対する意欲が低下してしまう。

そのため、「体育嫌い」だけではなく、運動が得意な生徒にも配慮した授業づくりをしていかなければならない。個人で行う競技の単元と違い、チームで行う競技の単元は、能力差に応じて取り組む内容を変えることは難しい。

以上が本稿の課題と背景である。この課題の検討結果を本稿は次の手順で報告する。第一に、参与観察や事前アンケートから得た生徒の実態を明らかにする。第二に、基礎練習で行った内容をまとめる。第三に、その後のゲームでの生徒の様子をまとめる。第四に、事後アンケートの結果から考察していく。なお研究は山梨県の公立高等学校の体育でバレーボールを選択した3年生68人を対象とした。習熟クラスをa群、通常クラスをb群とし、それぞれを男女で分けた(a群男子12人・a群女子26人・b群男子16人・b群女子14人)。

## 2. 観察と事前アンケートから得る生徒の実態

### (1) 参与観察による考察

実習校でバレーボールの授業における生徒の実態を調査した。授業は、ゲーム中心の授業内容であった。(i) a 群男子は、バレーボール部の生徒が 1 人在籍しており、レシーブ・トス・スパイクの三段攻撃を意識して取り組んでいた。(ii) a 群女子は、サーブが入らなかったりラリーがなかなか続かなかったりすることが多く、三段攻撃が見られることは皆無であった。(iii) b 群男子は、バレーボール部の生徒が 4 人在籍している。さらに全体的に運動能力の高い生徒が集まっているため、ゲームのレベルはとて高く、三段攻撃から得点を取ることができていた。

以上の 3 群については、参与観察からは「体育嫌い」は存在しないと見ることができた。a 群女子については、技能面で劣る生徒は数人いたが、3 群すべてにおいて授業中の雰囲気がとてもよく、授業への意欲がとても高いと感じた。「天井効果」について、a 群女子には特に技術面で突出している生徒がいなかったため、問題はないと見て取れた。両群の男子については、バレーボール部に所属している生徒や、運動能力の高い生徒が存在したため、「天井効果」が生じてしまう可能性があり、何らかのアプローチをする必要があると判断した。

b 群女子は、運動能力の高い生徒とそうではない生徒の差がとても広く、後者の中の 5 人の生徒は物静かな性格の生徒であるように見えた。その生徒たちは、彼女たち同士ではコミュニケーションを取っているのだが、ゲーム中はコート内でほとんど動くことがなかった。また、ラリーが続くこともほとんどなかった。生徒の授業に対する意欲の温度差がとてもあり、運動能力の高い生徒や積極的に取り組んでいる生徒からは不満の声も上がっていた。

「体育嫌い」と「天井効果」の問題が浮き彫りとなっていたのである。

### (2) 事前アンケートの内容

事前アンケートは、生徒 68 人(男子 28 人、女子 40 人)に対して実施し、参与観察後の 10

月末に実施した。質問項目は表 1 の通りで、次の意図に基づいている。

「運動」、「体育の授業（以下、「体育」とする。）」、「体育の授業でのバレーボール（以下、「バレーボール」とする。）」の 3 項目のそれぞれについて、「とても好き」「好き」「嫌い」「とても嫌い」の中から回答してもらうことで、それぞれの項目に対する生徒一人ひとりの思いを把握した (Q1, Q3, Q5)。

またそのような回答をした理由を記述してもらうことで、「嫌い」「とても嫌い」と答えた生徒の嫌う原因を明らかにし、その解決方法を検討するための手立てとした (Q2, Q4, Q6)。

また、現時点で他の生徒に技能的なアドバイスや指導をすることができるかを調査するために Q7 を設定し、授業でペア活動やグループ活動を行うにあたり、その有効性を調査するために Q8 を設定した。

表 1 事前アンケートの内容

|    |                                                     |
|----|-----------------------------------------------------|
| Q1 | あなたは運動が好きですか？<br>①とても好き ②好き ③嫌い ④とても嫌い              |
| Q2 | Q1 のように答えた理由を具体的に教えてください。                           |
| Q3 | あなたは体育の授業が好きですか？<br>①とても好き ②好き ③嫌い ④とても嫌い           |
| Q4 | Q3 のように答えた理由を具体的に教えてください。                           |
| Q5 | あなたは体育の授業でのバレーボールが好きですか？<br>①とても好き ②好き ③嫌い ④とても嫌い   |
| Q6 | Q5 のように答えた理由を具体的に教えてください。                           |
| Q7 | 体育の授業で行うペア活動やグループ活動は好きですか？<br>①好き ②仲の良い友だちとなら好き ③嫌い |
| Q8 | バレーボールの授業において他の人に教えることができますか？<br>①できる ②少しできる ③できない  |

### (3) 事前アンケートの結果

事前アンケートの結果を集計したものが表 2 と表 3 である。この結果で特に筆者が目にするのが、Q6 の「バレーボール」を「嫌い」「とても嫌い」とする理由である。

表2 事前アンケートの結果 (1)  
Q1・3・5・7・8

| 質問 | 男子 (28人)                                              | 女子 (40人)                                               |
|----|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| Q1 | <運動><br>とても好き 22人<br>好き 6人<br>嫌い 0人<br>とても嫌い 0人       | <運動><br>とても好き 7人<br>好き 24人<br>嫌い 6人<br>とても嫌い 3人        |
| Q3 | <体育><br>とても好き 19人<br>好き 9人<br>嫌い 0人<br>とても嫌い 0人       | <体育><br>とても好き 7人<br>好き 26人<br>嫌い 5人<br>とても嫌い 2人        |
| Q5 | <バレーボール><br>とても好き 22人<br>好き 6人<br>嫌い 0人<br>とても嫌い 0人   | <バレーボール><br>とても好き 15人<br>好き 20人<br>嫌い 5人<br>とても嫌い 0人   |
| Q7 | <ペア・グループ活動><br>好き 21人<br>仲の良い友だちと<br>なら好き 7人<br>嫌い 0人 | <ペア・グループ活動><br>好き 24人<br>仲の良い友だちと<br>なら好き 16人<br>嫌い 0人 |
| Q8 | <他人に教える><br>できる 8人<br>少しできる 9人<br>できない 11人            | <他人に教える><br>できる 2人<br>少しできる 12人<br>できない 26人            |

表3 事前アンケートの結果 (2)  
Q2・4・6

| 質問 | 「③嫌い・④とても嫌い」の理由                                |
|----|------------------------------------------------|
| Q2 | <運動><br>・苦手だから。できないから。<br>・疲れるから。              |
| Q4 | <体育><br>・運動が苦手だから。<br>・周りの人に迷惑をかけてしまうから。       |
| Q6 | <バレーボール><br>・できないから。<br>・痛いから。<br>・周りに申し訳ないから。 |

#### (4) 事前アンケートの結果の考察

まず男子は、「運動」「体育」「バレーボール」の3項目について、「嫌い」または「とても嫌い」と答えた生徒は1人もいなかった。参与観察からも分かったように、このことから、全員の授業への意欲は高いということが分かる。

女子は、3項目のそれぞれに対し、「嫌い」または「とても嫌い」と回答をした生徒が数人ずつ存在した。参与観察から注視していたb群女子の5人すべての生徒が3項目すべてで、

「嫌い」または「とても嫌い」と回答していた。「バレーボール」を「嫌い」または「とても嫌い」と回答した生徒の理由には、「できないから。」「痛いから。」という自分自身に関する理由や、「周りに申し訳ないから。」という他人との関係による理由があった。b群女子の5人の生徒については、運動能力が低いだけでなく、他の生徒とのコミュニケーションも少ないため、他人との人間関係にも「体育嫌い」の要因があると考えられる。

Q7では、この5人も含めた全生徒が「好き」または「仲の良い友だちとなら好き」と回答しており、自分たちの選んだペアやグループでの活動には好印象を持っていることが分かったため、そのような活動を取り入れることは効果的であると判断した。

またQ8では、男子は3分の1以上、女子は約3分の2が「できない。」と回答しており、現段階では運動能力の高い生徒であっても他の生徒にアドバイスをしたり指導したりすることは難しく、それを目標とすることで「天井効果」が生じないための取り組みとすることもできると考えられる。

### 3. 授業内容と結果、考察

#### (1) 授業内容

第一に、女子生徒に数人存在する「体育嫌い」の生徒の「できないから。」「痛いから。」という理由に着目し、その解決策のために基礎練習を行うこととした。基礎練習を行うことで、技能を向上させ、「できない。」「痛いから。」という理由に関して、正しいフォームを知ったり練習を重ねたりすることで解決することができると考えた。基礎練習を行う際に、自分たちの決めたペアやグループで活動させることで、「周りに申し訳ないから。」という思いも半減すると期待でき、授業への意欲も向上するのではないかと考えた。

また、基礎練習は「天井効果」の対策としても有効であると考えた。基礎練習を行うことで、その後のゲームをさらに楽しむことができ、基礎練習の中で教え合いが行われること

により、全体的に技能が向上しゲームのレベルが上がったり、運動能力の高い生徒の学びにつながったりすると考えた。

ここでは、全 4 回の基礎練習の内容とその後のゲームの様子、各授業後の記録用紙への生徒の記入内容についてまとめる。なお、授業内容の作成主体、主な授業者は実習校の教師が行い、私は観察とビデオ撮影、TT による指導を行った。

### ①基礎練習 1 回目

基礎練習 1 回目「パス編」の授業記録を表 4 にまとめた。

| 表 4 基礎練習 1 回目「パス編」 |                                                 |
|--------------------|-------------------------------------------------|
|                    | 練習内容                                            |
| 全員                 | (1) 正しいフォームと身体の使い方を確認し、ペアになって行う。                |
| 男子                 | (2) スパイクのポイントを確認し、ペアで対人パスを行う。                   |
|                    | (3) ネットを使用し、セッターとのパスからスパイクを打つ。                  |
|                    | (4) ゲームを行う。                                     |
| 女子                 | (2) ペアになり、＜ペアからのパスをアンダーで真上へ上げ、オーバーで相手へ返す＞を繰り返す。 |
|                    | (3) ペア 2 組で 4 人グループとなり、＜ペアで 3 回触ったら相手ペアへ＞を繰り返す。 |

まずこのように、練習内容を男女間でその集団に合った内容を行うことで、「体育嫌い」が 1 人もいない男子にとって意欲を下げないようにした。

女子については、授業に対する意欲やバレーボールの技能の差が大きく開いているため、ワンランク難しいことなどをさせることによって「天上効果」における技能向上の停滞や意欲低下などに至らないようにした。

「体育嫌い」の生徒はその 5 人でペアやグループを作り、基礎練習に積極的に参加しているように見えた。さらに笑い声や小さな歓声が聞こえることもあった。

表 5 記録用紙の内容

|                     |
|---------------------|
| ＜男子バレーボール部の生徒＞      |
| ・仲間にアドバイスをすることができた。 |
| ・積極的にみんなにトスを上げられた。  |

＜「体育嫌い」の生徒＞

- ・膝を使う感覚が分かった。
- ・（良かったことは）特になし。

### ②基礎練習 2 回目

基礎練習 2 回目「サーブレシーブ編」の授業記録を表 6 にまとめた。

表 6 基礎練習 2 回目「サーブレシーブ編」

|    | 練習内容                                           |
|----|------------------------------------------------|
| 全員 | (1) バレー部の生徒を見本としてサーブレシーブのフォームを確認する。            |
|    | (2) ペアになり、ペアに向かってボールを軽く投げ、フォームを意識してボールをキャッチする。 |
|    | (3) サーブのボールをキャッチする。                            |
|    | (4) サーブレシーブを実際に行う。                             |
| 男子 | (5) A クイックの練習を行う。                              |
|    | (6) ゲームを行う。                                    |

「体育嫌い」の生徒は、飛んでくるボールに恐怖心を持ち、避けてしまったり腕で自分の身を守ったりしてしまい、なかなか (4) の活動に進むことができなかった。教師がサポートしてあげることで無理に前には進まず、できることを何度も繰り返して自信を持たせたり楽しいと思わせたりすることができるよう留意した。得意な生徒にはスパイクまでの一連の流れを行うことで、意欲と技能の向上につなげていった。

男子では、次回から行う予定であるスパイクの練習を取り入れ、サーブレシーブからの一連の流れの中で、さまざまな種類のスパイクが打てるように練習した。

表 7 記録用紙の内容

|                                  |
|----------------------------------|
| ＜男子バレーボール部の生徒＞                   |
| ・スパイク練習の時、仲間に一人一回アドバイスをすることができた。 |
| ＜「体育嫌い」の生徒＞                      |
| ・基礎の練習をしっかりと、身に付けなければいけないと感じた。   |
| ・前回よりもパスが安定して続いた。                |
| ・少しずつ成長していると思って良かった。             |

### ③基礎練習 3 回目

基礎練習 3 回目「スパイク編」の授業記録を表 8 にまとめた。

表 8 基礎練習 3 回目「スパイク編」

|    | 練習内容                                                                                                                               |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全員 | (1) 先生とバレー部の生徒の見本で、正しいフォームを確認し、1人で壁打ちを行う。                                                                                          |
| 男子 | (2) ペアになり、対戦形式で壁打ちを行う。<br>(3) バレー部の生徒を見本としてスパイクの助走動作を確認し、実際にネットの前で助走動作を行い、ジャンプしてボールに触る。<br>(4) レシーブ、トス、スパイクの流れから打つ。<br>(5) ゲームを行う。 |
| 女子 | (2) ペアになり、相手に向かって打つ。(Part1～Part3)<br>(3) スパイクの助走動作を確認する。<br>(4) 実際にネットの前で助走動作を行い、ジャンプしてボールに触る。<br>(5) レシーブ、トス、スパイクの流れから打つ。         |

スパイクはレシーブやトスよりも難易度が高いため、段階的に練習する必要がある。また、必要とする要素が多いため、上半身と下半身にポイントを分けて練習を行った。女子について、(4)・(5)は自分たちの決めたグループで取り組み、そのグループに合った進度で取り組んでいた。そのためグループによっては(5)の練習を早々に行っていた。「体育嫌い」の生徒たちはそのメンバーでグループを作り、自分たちなりのペースで取り組んでいた。

男子についてはバレーボール部の生徒がセッターをすることで、他の生徒がスパイク練習に効率的に取り組むことができていた。

表 9 記録用紙の内容

|                                         |
|-----------------------------------------|
| ＜男子バレーボール部の生徒＞                          |
| ・みんなが成長しているを感じる。                        |
| ・トスを 100 発 100 中にして、より良い練習にしていける。       |
| ＜「体育嫌い」の生徒＞                             |
| ・スパイクを打つときは、指先ではなく手のひらにボールをあてることを意識したい。 |
| ・スパイクをする時に腕の動きやステップのポイントを意識しながら練習できた。   |

## ④基礎練習 4 回目

基礎練習 4 回目「サーブ編」の授業記録を表 10 にまとめた。

表 10 基礎練習 4 回目「サーブ編」

|   | 練習内容                    |
|---|-------------------------|
| 全 | (1) サーブの種類を知り、サーブの目的を確認 |

|   |               |
|---|---------------|
| 員 | する。           |
|   | (2) サーブ練習を行う。 |
|   | (3) ゲームを行う。   |

サーブの練習では取り組む内容としては男女ともに同じであるが、目標を変えて行った。

男子は「サーブが入ることは大前提」とし、サーブは戦略的に打つことでさらなる攻防につながると、実演を交えて説明し、自分に合ったサーブを見つけて練習を行った。

女子についても、狙って打ったりサーブを選んだりすることができる生徒が数人いるため、戦略的なサーブも説明するが、そうではない生徒には、技術的なアドバイスをしたりコート内から打たせたりすることで、「サーブを入れること」を目標とした。

「教え合い」は男子によく見られた。複数の生徒が自らバレーボール部の生徒に質問したりアドバイスを依頼したりしていた。

表 11 記録用紙の内容

|                                |
|--------------------------------|
| ＜男子バレーボール部の生徒＞                 |
| ・ジャンプサーブの練習がたくさんできた。           |
| ・R のジャンプサーブがとても良くなった。          |
| ＜バレーボール部に教えを請いていた生徒＞           |
| ・強いサーブが打てるようになった。              |
| ・T にジャンプサーブのコツを教えてもらった。        |
| ＜「体育嫌い」の生徒＞                    |
| ・サーブをコントロールできるようにしたい。          |
| ・サーブを打つときはボールを少し上げてから打つと打ちやすい。 |

## ⑤ゲーム (a 群男子・a 群女子・b 群男子)

a 群男子は、相手のサーブやスパイクを拾ってから三段攻撃につなぐことができていた場面がとても多かった。またブロックを活用して攻防を楽しむことができていた。

a 群女子は、サーブレシーブやパスが安定して行えるようになったため、三段攻撃から点を奪うことやラリーを安定して続けることができるようになっていた。毎回の授業で 3 つのチームを編成し直しているが、どのチームもどのゲームも偏りがなかった。

b 群男子は a 群男子よりもさらにレベルが高く、A クイックや、授業では取り扱っていない時間差攻撃がゲームの中で使われて

いた。サーブもコースを狙うサーブが増え、攻防や駆け引きという点でもワンランク上がったゲームが繰り広げられていた。

表 12 記録用紙の内容

|                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;a 群男子の生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱりラリーが続くと楽しい。</li> <li>・スパイクで強いボールではなく、空いているところを狙って打てた。</li> <li>・フェイントで前後に揺さぶることができた。</li> </ul>                                                           |
| <p>&lt;a 群女子の生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だんだんラリーが続くようになったり、サーブが入る確率が上がったりして、だんだん楽しくゲームができるようになった。</li> <li>・目標が 3 段攻撃をすることだったけど、トスも上げられたし、スパイクも打てて良かった。</li> <li>・みんなで声をかけ合ってラリーを続けることができた。</li> </ul> |
| <p>&lt;b 群男子の生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな駆け引きがうまくなった。</li> <li>・全員、始めた頃と比べるととてつもなく上達した。セッターをやって、多彩なコンビを作ることができた。</li> <li>・時間差攻撃で相手を惑わすことができた。</li> </ul>                                           |

## ⑥ゲーム (b 群女子)

b 群女子は、ラリーが全く続かず、基礎練習では積極的に取り組んでいた、「体育嫌い」の生徒たちの意欲が再び下がってしまっているように見えた。さらに、基礎練習ではできていたパスやサーブについても安定して行うことができなくなっていた。

そこで、14 人いる生徒を 3 チームに再編成した。チーム編成の仕方は、まずこれまでに注視してきた「体育嫌い」の生徒 5 人を 1 つのチーム (C する) とし、他の生徒は運動能力を考慮して均等に 5 人 (A とする) と 4 人 (B とする) の 2 チームに分けた。A 対 B のゲームには、筆者と実習校のバレーボールを専門とする教師がそれぞれのチームに入ってゲームを行う。A か B 対 C のゲームには、C に教師 2 人が入り、A か B にはそれぞれ休んでいる方のチームの生徒が助っ人として入るという形でゲームを行った。

この工夫をした意図は、まず A 対 B のゲームにおいては、運動能力の低い生徒がゲーム内におらず、さらに教師がそれぞれのチームに入ることにより、ゲーム自体のレベルの

向上が期待できるということである。次に C のゲームでは、まずは基礎練習時のように仲の良いグループで取り組むこと、また教師が入ることにより、ゲーム中にアドバイスを受けてたり、チームとしてのプレーが安定したりすることが期待できるという意図でこの工夫を取り入れた。

結果として、A 対 B のゲームでは、ラリーが続くようになり、三段攻撃が行われる頻度もととも増えた。そして教師が入る前のゲームよりも歓声や笑い声も増え、雰囲気も改善したように見えた。C のゲームでもラリーが続くようになり、三段攻撃の頻度がとても増えた。また、一人ひとりが自信を持ってプレーしたり楽しそうにプレーしたりしているように見えた。

表 13 記録用紙の内容

|                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;生徒のみのゲーム時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三段攻撃を目標に頑張りたい。</li> <li>・もっとラリーが続けられるようになりたい。</li> </ul>                     |
| <p>&lt;A、B の生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の授業よりめっちゃ楽しくなった。</li> <li>・先生のサーブもしっかりセッターに返すことができた。</li> </ul>               |
| <p>&lt;C の生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だんだんパスが続けられるようになった。</li> <li>・最初は全然できなかったのに、少しずつ上達したからみんなで楽しくバレーができた。</li> </ul> |

## 4. 事後アンケート

### (1) 事後アンケートの内容

事後アンケートは 1 月に実施した。質問項目は表 14 の通りで、次の意図に基づいている。

Q1～Q7 については、事前アンケートとの比較のために同様の項目を設定した。

また、b 群女子のみを対象に、教師がゲームに介入したことに対する感想を記入してもらう項目を設定した (Q8)。

表 14 事後アンケートの内容

|    |                                           |
|----|-------------------------------------------|
| Q1 | あなたは運動が好きですか？<br>①とても好き ②好き ③嫌い ④とても嫌い    |
| Q2 | Q1 のように答えた理由を具体的に教えてください。                 |
| Q3 | あなたは体育の授業が好きですか？<br>①とても好き ②好き ③嫌い ④とても嫌い |

|    |                                                                       |
|----|-----------------------------------------------------------------------|
|    | 嫌い                                                                    |
| Q4 | Q4のように答えた理由を具体的に教えてください。                                              |
| Q5 | あなたは体育の授業でのバレーボールが好きですか？<br>①とても好き ②好き ③嫌い ④とても嫌い                     |
| Q6 | Q7のように答えた理由を具体的に教えてください。                                              |
| Q7 | バレーボールの授業において他の人に教えることができましたか？<br>①できた ②少しできた ③できなかった                 |
| Q8 | ゲームに先生 2 人が入ったことはどうでしたか？良かったことや嫌だったことなど具体的に教えてください。正直な気持ちでの回答をお願いします。 |

## (2) 事後アンケートの結果

事後アンケートの結果を集計したものが表 15 と表 16 である。

表 15 事後アンケートの結果 (1)  
Q1・3・5・7

| 質問 | 男子 (28 人)                                               | 女子 (40 人)                                                |
|----|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| Q1 | <運動><br>とても好き 21 人<br>好き 7 人<br>嫌い 0 人<br>とても嫌い 0 人     | <運動><br>とても好き 9 人<br>好き 22 人<br>嫌い 9 人<br>とても嫌い 0 人      |
| Q3 | <体育><br>とても好き 19 人<br>好き 9 人<br>嫌い 0 人<br>とても嫌い 0 人     | <体育><br>とても好き 10 人<br>好き 25 人<br>嫌い 5 人<br>とても嫌い 0 人     |
| Q5 | <バレーボール><br>とても好き 20 人<br>好き 8 人<br>嫌い 0 人<br>とても嫌い 0 人 | <バレーボール><br>とても好き 17 人<br>好き 23 人<br>嫌い 0 人<br>とても嫌い 0 人 |
| Q7 | <他人に教える><br>できた 16 人<br>少しできた 4 人<br>できなかった 8 人         | <他人に教える><br>できた 3 人<br>少しできた 13 人<br>できなかった 24 人         |

表 16 事後アンケートの結果 (2)  
Q6・8

|    |                                                                                                       |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Q6 | <事前アンケートでバレーボールを「嫌い」「とても嫌い」と回答した生徒の「好き」と回答した理由><br>・ゲームが少し楽しかったから。<br>・上手くできると嬉しいから。<br>・友達と楽しくできるから。 |
| Q8 | <b 群女子の感想><br>・前よりもすごく楽しくなった。<br>・やりやすかったし助かった。<br>・私たちのチームはほとんどの人が運動                                 |

|  |                                                                         |
|--|-------------------------------------------------------------------------|
|  | やスポーツが苦手だったので、パスが続いたり盛り上がりたりして楽しかった。<br>・先生のサーブもしっかりセッターに返すことができて嬉しかった。 |
|--|-------------------------------------------------------------------------|

## 5. 考察—授業結果と事後アンケート結果を受けて—

両群男子は、基礎練習を行ったことによって、ゲームにおいてハイレベルな攻防を展開することができ、ゲームがさらに楽しいと実感することができたのではないかと考えられる。さらに、男子バレーボール部の生徒は、他の生徒への指導やハイレベルな練習を行えるようにするための取り組みができていたため、この生徒たちの「天井効果」を生まないための取り組みとしても効果的であったと考えられる。また、事後アンケートの Q7 で、男子は「できた」と回答した生徒が約 2 倍になっていた。このことから、基礎練習を行ったことによって知識や技術を身に付け、それを他の生徒に伝えることができるようになってきているという点においても、「天井効果」を生まない取り組みとして効果的であったと考えられる。

a 群女子も、基礎練習の前後でゲームの内容が変わったということや、どのチーム編成でも大差なくゲームが行われていたことから、全体的に技能が向上したと判断することができ、基礎練習が効果的であったと考えられる。この群には、事前アンケートで「バレーボール」において「体育嫌い」の生徒はいなかったことから、男子と同様に、前向きに基礎練習やゲームに取り組むことができており、その影響で技術向上につながったと考えられる。

b 群女子については、基礎練習時、「体育嫌い」の生徒はそのメンバーでグループを作ったことで、周りの生徒に影響されることなく取り組むことができたと考えられる。回数を重ねるにつれて、全体的に技術も向上していた。しかし、基礎練習後のゲームにおいてパフォーマンスが発揮できなかったのは、グループが解体され、周りの生徒と一緒に取り組まなければならないなかったということが原因であると考えられる。一方、3 チームでのゲームで

一人ひとりのパフォーマンスが向上した要因としては、仲の良いメンバーだけで行えることや、教師が入ったことによる安心感が影響しているのではないかと考えられる。事後アンケートの Q8 で、「体育嫌い」の生徒は教師の介入について、「やりやすかったし助かった。」「私たちのチームはほとんどの人が運動やスポーツが苦手だったので、パスが続いたり盛り上がったりして楽しかった。」と回答しており、チーム編成や教師の介入は効果的であったと言える。また運動能力が高い生徒は、「先生のサーブもしっかりセッターに返すことができて嬉しかった。」と回答しており、能力が高いほど、教師が入ることによって「先生に勝ちたい」「先生の打ったボールを拾いたい」という気持ちになり、「天井効果」を生まないための取り組みとなっていたと考えられる。

事後アンケートの Q1～4 の回答は、事前アンケートとほとんど変化が見られなかった。しかし、b 群女子の「体育嫌い」の生徒については、Q5 でその全員が「バレーボール」を「好き」と回答した。その理由として「体育嫌い」の生徒は、Q6 で「ゲームが少し楽しかったから。」「上手くできると嬉しいから。」「友達と楽しくできるから。」と回答した。

以上のことから、「体育嫌い」の生徒にとっては、「できないから。」「周りに申し訳ないから。」というものが「体育」や「バレーボール」が「嫌い」な理由として非常に大きいと分かる。つまり、体育が苦手であることが原因で周りの生徒に迷惑をかけてしまうことが「体育嫌い」の生徒の大きな苦痛であるということである。このような生徒には、スモールステップによる取り組みが必要である。「できないから。」という理由の克服として基礎練習を徐々に行い、「周りに迷惑をかけたくないから。」という理由の克服として仲の良いメンバーで行ったり教師が介入したりすることで、「体育嫌い」の生徒にとっての苦痛を感じさせない授業が必要である。また、それは同時に「天井効果」を生まないための授業ともなり得る。

## 6. 本稿の総括と今後の課題

今回の研究では、事前アンケートと事後アンケートを比較して、「バレーボール」を「嫌い」「とても嫌い」と回答した生徒を 0 人にすることができた。「運動」「体育」については、事後アンケートにおいても「嫌い」「とても嫌い」と回答した生徒は複数いたが、「バレーボール」の授業において「体育嫌い」を改善できたことは大きな成果である。また、スモールステップの方法として基礎練習とその行い方、教師の介入などがあることを実感した。

今後の課題としては、教え合い活動について再検討していくことが挙げられる。男子については教え合い行われていたことは分かったが、その詳細について把握することはできていない。また女子については、あまり教え合いが見られなかった。教え合いによってどんな効果が生まれたか、どのように促していくかということを再検討していく必要がある。また生徒の実態から基礎練習の内容を自分自身で検討してから授業を行うこと、特に生徒の技能向上における専門的な指導に関する内容を考えていくことも今後の課題である。本研究で得た成果を今後さらに活用していくことができるよう、課題に向き合っていきたい。

### <参考文献>

- ・footballologies (2018)「天井効果」とは、FOOTBALLOLOGIES, <http://football.ologies.net/2018/08/31/ceiling-effect/>, (参照日. 2021 年 1 月 27 日).
- ・加賀はづき (2006)「運動嫌い」・「体育嫌い」について：教師と生徒の相互認識差に着目して. 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集, 7.
- ・吉川麻衣・山谷幸司・笹生心太 (2012)「運動嫌い」「体育嫌い」の実態と発生要因に関する研究—小学生・中学生・高校生における「運動嫌い」と「体育嫌い」の関連性に着目して—. 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集, 13 : 107-116.